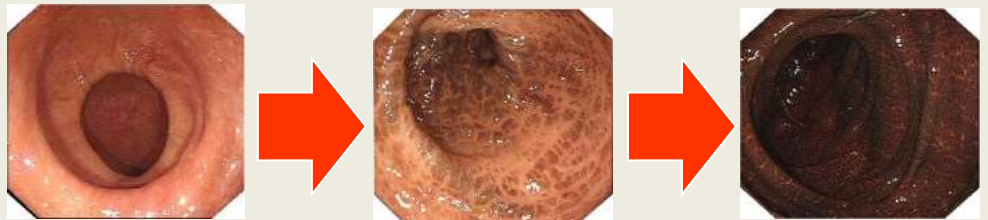


ご存知ですか??

## 大腸メラノーシスと下剤の関係

### 大腸メラノーシスとは?

「大腸黒皮症」とも言われ、**大腸刺激性下剤（アントラキノン系）の長期連用**により大腸粘膜が黒く変色した状態（図1）です。大腸の動きが悪くなり、刺激に鈍感となり**便秘の重症化**に繋がるだけでなく、**大腸腺腫や大腸癌のリスクも高まります。**



グレード I

グレード II

グレード III

【引用】 Liu ZH, et al. (2017) : Melanosis coli : Harmless pigmentation? A case-control retrospective study of 657 cases. PLoS ONE 12(10)

図1 刺激性下剤多用による大腸粘膜の経過（グレード I～III）

表1 下剤の分類

種類	当院採用薬名	特徴
機械的下剤	膨張性下剤 コロネル	人によっては効果が出ないことがある
	塩類下剤 酸化マグネシウム	高マグネシウム血症に要注意(死亡例あり) 併用注意薬が多い
	糖類下剤 ラクツロース	便秘での保険適用なし
刺激性下剤	アントラキノン系 センノシド 麻子仁丸	習慣性がある 長期間の常用で大腸メラノーシスを生じる
	ジフェニール系 ピコスルファート ラクソベロン	習慣性は比較的少ない 長期使用により、内服量が増えたり効果が減弱したりすることがある
	上皮機能変容薬 Clチャンネルアクチベーター	アミティーザ 妊婦への使用禁忌
消化管運動賦活薬 5-HT <sub>2</sub> 受容体拮抗薬	モサブリド	肝障害を生じることがある
胆汁酸トランスポーター阻害薬	グーフイス	水分分泌増加作用+大腸蠕動運動促進作用
坐剤	新レシカルボン	即効性あり
洗腸	グリセリン洗腸	直腸粘膜の損傷に要注意

精神科病院では向精神薬の副作用による麻痺性イレウスが長年の問題となっており、**下剤の使用量が非常に多い傾向にあります。**

下剤には様々な作用機序がありますが（表1）、中でも**アントラキノン系刺激性下剤の長期投与は大腸メラノーシスを引き起こす恐れがあります。**

当院NSTでも2014年より「センノシドによる下剤依存症について」啓発を行ってきました。今後、更に下剤の適正使用をすすめていく必要があると考えています。

## ▼松末先生によるNST研修会が行われました!



▲ご講演されている松末先生

### NST研修会「栄養は精神状態に関係する?」

8月27日、11月12日に院内および院外（(株)ネスレ）にて松末先生によるNST研修会が実施されました。今回は**栄養状態と精神状態の関係**を中心に、**精神における各種栄養素の欠乏症や血糖との関係**、“無栄養”に伴うリスクなどについてご講演いただきました。院内外で大変ご好評いただき、近々Webセミナーも開催される予定です。

#### <8月27日実施 院内ビデオ研修アンケート結果(コメント抜粋)>

- 【医師】 栄養状態と精神状態の関連性について知ることができ、今後は栄養状態にさらに気を配ろうと思う。特に早食いや拒食の対応を強力に行うべきではないかと思う。また、多職種共同の重要性が理解できた。など
- 【看護師】 毎日何気なく食事を見守っていたが、今回の研修を受けて患者の栄養を考慮し今後は患者自身へ食べるように誘導できると思う。など
- 【栄養士】 栄養指導で難しいと感じることもあるが、患者にも栄養の大切さについて知ってもらい症状や疾患の改善に向けて積極的なサポートを行いたいと改めて感じた。など

#### Webセミナーご案内

『(株)ネスレ主催

南大阪精神科交流会 WEBセミナー』

日時：2021年12月3日 18:00～

・美味しいと感じられる食事ケア～負担軽減食の導入～

浅香山病院 看護部部長 山田 貴代子先生

・精神科領域の栄養を考える

木島病院 診療顧問 松末 智先生

⇒申込：<https://forms.office.com/r/MjYeNSwtVS>

へアクセスしお申込みください

# 木島病院での低Alb血症の基準について考える

## ▼当院での低Alb血症の基準を考えるまでの経緯…



「低Alb血症やけど、この人見た目は元気よな…」

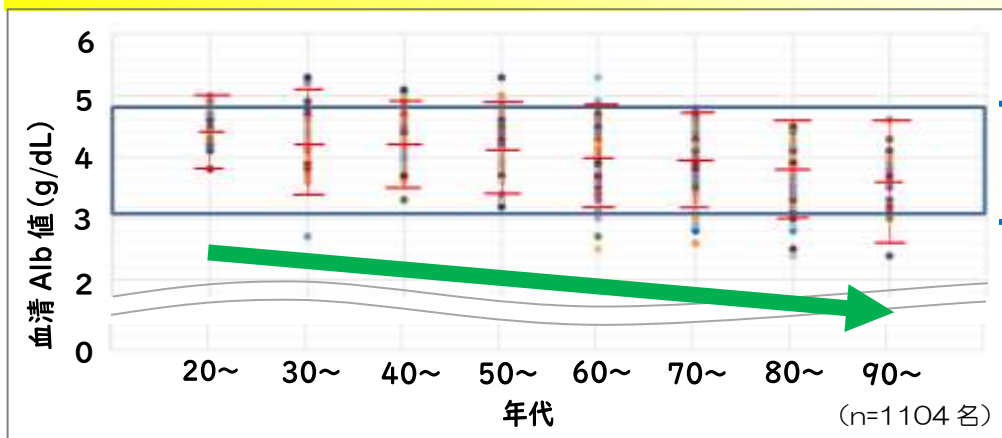
「しっかり食べているけど、血清Alb値上がれへん〜！」



当院では、NST結成以来血清アルブミン（Alb）値3.5g/dL未滿をNST介入の一つの基準として患者ケアを行ってきました。その内、上記のような事例を度々見かけるようになったのです…。この様な事態からNST内で血清Alb値の介入基準見直しが必要では？との機運が高まりました。

そこで、まずは当院全入院患者の血清Alb値はどんな状況なのか、2019年より2年間で1104人の患者を対象に調査を行ってみました！

## その結果…



木島病院入院患者

血清Alb値の分布(95%)

**3.1~4.8g/dL**

※外注先検査会社血清Alb値基準範囲(3.7~5.5g/dL)

血清Alb値の平均は  
**年齢と共に低下**

図2 木島病院入院患者の年代別血清Alb値実測値分布図(2019~2020年度)



NST 臨床検査技師  
吉田さん

### ▼調査に当たったNST臨床検査技師よりコメント

入院患者さんの2年間のデータを用いて血清Alb値の調査をさせていただきました。

基準範囲が検査会社ごとに異なることは知っていたのですが、母集団の違いでこんなにも差が出たことに今回は驚かされました。また、図2のように年齢と共に低下していることもわかりましたので、身体的に問題がなく血清Alb値のみ気になる患者さまの参考にしていただければ幸いです。

## NST栄養クイズ

以上の調査から、NSTでは

『**血清Alb値介入基準を3.1g/dL以下とする**』検討を始めました！

### Q. 生活習慣病になりにくい食生活で、誤っているものはどれでしょう？

- ①腹八分目にする ②栄養バランスよく食べる ③ゆっくりよく噛んで食べる  
④カロリーを抑えるため1日2食に減らす ⑤決まった時間に食べる

A. ④が誤りです。

食事は1日3食(朝・昼・夕)できるだけ決まった時間にとり、ゆっくりよく噛み、腹八分目までに抑えましょう！多くの食品を使ったバランスのとれた食事を心がける事が大切です♪

